



# みどり

第5号 令和5年9月5日



目指す児童像 ◇学び合う子 ◇思いやる子 ◇きたえる子

【緑小HP】

下野市立緑小学校 鈴木 寧子

～ 元気なあいさつ 輝くひとみ みんなが笑顔 みどりの子 ～

<「元気なあいさつ 輝くひとみ みんなが笑顔 みどりの子」を目指して～>  
前期後半開始です！

9月1日。学校に再び子供たちの笑顔と元気な姿が戻ってきました。夏休み中は、個人面談やPTA奉仕作業など大変お世話になりました。

暑さが一向に収まらない8月下旬、長い夏休みを終えて子供たちはどんな気持ちで登校してくるだろうかと考えていました。久しぶりに入る教室、しばらく会わなかった友達や先生。「始めの一步」は少し緊張しているかな、宿題が気がかりな子もいるかな…。初日のお子さんの様子はいかがでしたか。これからも学校が子供たちにとって安心して登校できる場所であるよう努めてまいります。

学校が再開する節目に、「夏休み明け集会(校内放送)」で子供たちに1つ提案をしました。

毎日の学校生活の中で「自分っていいなをみつめてみませんか」  
授業中、勇気を持って手を挙げて発表できた自分っていいな。  
友達の発表をよく聴こうとしている自分っていいな。  
協力してグループ活動をしようとしている自分達って素敵だな。  
素直に喜んだり、感動したりできる自分って素敵だな。  
しんどくても努力して頑張れる自分ってかっこいいな。  
周りのことを考えて行動できる自分って成長したな。  
毎日の学校生活のなかで、「こんな自分っていいかもしれない」「こんな自分を好きになれる」  
「こんな風にできる自分って成長したな」、このような自分に気付いてほしいと思います。



子供たちの心の中や子供たち自身には、「やさしさや思いやりの種」や「もっともっとできる・伸びる可能性の芽」があります。小さいいいな、小さな素敵をたくさん見つけ出し、今の自分をさらに大きな自分にさせる学校生活を送って欲しいと思います。そして、私たち職員はそんな子供たちの成長を支え、認め、励ましていきたいと思っています。ご家庭でも機会があれば、「自分っていいな」について話題にしていただけると幸いです。

<目指す児童像:学び合う子 思いやる子(確かな学力 豊かな心の育成)～よりよい授業を目指して～>  
各種学力調査の結果について 4月18日(火)に実施した「全国学力・学習状況調査」(6年生)及び「とちぎっ子学習状況調査」(4,5年生)の結果が届きましたので、概要をお知らせします。

☆ 大きく上回っている(10ポイント以上) ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上10ポイント未満)  
○ 上回っている(1ポイント以上 5ポイント未満) - 同程度(±1ポイント未満) ▽ 下回っている(1ポイント以上)

### (1)全国学力・学習状況調査の結果より

【全体と領域別の比較】(全国平均正答率との比較)

	国語
全体	◎
知識・技能	○
思考・判断・表現	◎
話すこと・聞くこと	◎
書くこと	☆
読むこと	☆

【全体的な傾向と考察】

	算数
全体	☆
知識・技能	☆
思考・判断・表現	☆
数と計算	☆
図形	☆
変化と関係	◎
データの活用	☆

- 安定して高い正答率であり、無回答率が顕著に低い。
- 教科や項目等によって大きなばらつきはない。
- 授業における理解や定着が概ね満足できる状況であると判断できる。
- 繰り返し学習することで定着が図れる事項について課題が見られる。
- 学習したことを生活に結び付けたり、日常生活の中から学習したりすることに課題が見られる。
- 知識を活用して、関連付けたり比較したりしながら自分の考えを明確にして表現することに課題が見られる。



### 【教科別結果を踏まえた課題と考察】

#### 国語

【知識・技能】①言葉の特徴や使い方に関する事項 ○漢字を文の中で正しく使う。「いがい」を漢字で書く。(短答式)

○日常よく使われる敬語の理解(選択式)→敬語の使い方をまとめた内容について適切に選択する。

②情報の使い方に関する事項 ○情報と情報との関係についての理解(短答式)→与えられた情報から関係を理解し適切に選択する。

【思考・判断・表現】①書くこと ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して伝える。(記述式)

#### <考察>

・設問別に見ると、概ね全国並びに県全体平均正答率を上回っているが、設問によって下回るものも見られる。特に知識・技能を問う問題で下回っている。具体的には「原因と結果など情報と情報との関係について、理解しているかどうかをみる」問題、「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」問題である。また「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題では特定の漢字で下回っている。

・思考・判断・表現を問う問題は「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題で課題がある。

・今後は現状の力を生かしながら、相手意識を高めたり読解力を高めたりする必要がある。また、生活と学習を結び付けたり、学習したことを生活の中で活用させたりしながら定着を図る指導が必要である。

#### 算数

【知識・技能】①図形 ○正三角形の意味や性質についての理解(短答式)→正三角形にするためにテープを切るときの角の大きさを書く。

②変化と関係○百分率で表された割合について理解している。(選択式)→基準量と比較量から30%の割合を選ぶ。

【思考・判断・表現】①図形 ○高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。

②数と計算 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。



<考察>

- ・全ての設問において、全国並びに県全体平均正答率は大きく上回っているものの、校内の比較においてはやや正答率が低い問題がある。
- ・既習の知識を活用して自分の考えを整理し説明するなど「知識を活用して思考し書いて説明する」記述式の設問に課題がある。
- ・日常生活の場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明することに課題がある。
- ・具体的な数値が示されていない場面に、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることに課題がある。
- ・今後は情報の関係性に着眼して整理して考えたり、既習事項を関連付けて説明したり、図やグラフなどを活用しながら、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導することが必要である。



【児童質問紙の結果を踏まえた考察】

- ・概ね学習の必要性は理解していて、家庭学習や宿題にも意欲的に取り組んでいる。
- ・自分の良さを自分で認められる割合より、先生に自分の良さを認めてもらっていると感じている割合の方が高い。
- ・生活においても学習においても、正しい判断や理解はできている。
- ・授業での学びを他の場面で生かしたり、教科間で関連付けて活用したりすることへの意識に課題が見られる。
- ・国語や算数については、教科が大切なことは理解しているものの、授業への前向きな取組につながっていない児童がいる。
- ・全体的にたくさんよい傾向が見られる。学習も学校生活も前向きに取り組んでいることが数字からうかがえる。
- ・今後も一人一人に寄り添った支援を通して、良さを伸ばし個人の成長を促すとともに、集団での学びを支えていく必要がある。

(2)とちぎっ子学習状況調査の結果より

【教科全体】 栃木県平均正答(%)率との比較 【傾向と考察】

	国語	算数	理科
4年生	◎	☆	◎
5年生	◎	☆	☆

- ・両学年とも全ての教科において、安定して高い正答率である。
- ・教科や項目等によって大きなばらつきは見られない。授業における理解や定着が概ね満足できる状況であると判断できる。

【観点別】 【傾向と考察】

4年生	国語	算数	理科
知識・技能	◎	◎	◎
思考・判断・表現	◎	☆	◎
5年生	国語	算数	理科
知識・技能	一	◎	◎
思考・判断・表現	☆	☆	☆

- ・どの教科も知識・技能に関する設問や選択式の問題形式について比較的正答率が高い。
- ・どの教科も思考・判断・表現に関する設問や記述式の問題形式について一部正答率が低かったり無回答率が高くなっている。
- ・知識・技能に関する設問において、国語では特定の漢字の書き取りの正答率が低く、無回答率が高い。算数では概ね高い正答率だが、特定の単元や項目で正答率が低いものがある。
- ・思考・判断・表現に関する設問において、国語では50%台程度のものが比較的多く見られる。算数では記述式の問題形式について一部正答率が低かったり無回答率が高くなっている。

【領域別】 【傾向と考察】

国語	話す 聞く	書く	読む	言語の特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化
4年生	◎	☆	◎	◎	☆	☆
5年生	○	☆	☆	▽	☆	◎
算数	数と計算	図形	測定	データの活用		
4年生	◎	☆	☆	○		
5年生	◎	☆	☆	◎		
理科	エネルギー	粒子	生命	地球		
4年生	☆	◎	◎	◎		
5年生	☆	☆	◎	◎		

- ・両学年とも、全教科概ね県平均正答率を上回っているものの、5年生の国語において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く問題では特定の漢字で下回っている。
- ・両学年とも書くことについて高い正答率を示している。既習事項を関連付けて説明したり、相手の考えと自分の考えを比較しながら思考して表現する設問で正答率が低くなったり無回答率が高くなる傾向がある。
- ・算数では両学年とも既習の知識を活用して自分の考えを整理し説明するなど「知識を活用して思考し書いて説明する」設問に無回答率が高く正答率も低い傾向である。
- ・理科ではどの設問に対しても無回答率が低い。

・今後は現状の力を生かしながら、相手意識を高めたり読解力を高めたりする必要がある。また、学習と生活を結び付けて考えさせたり、生活の中で学ぶ機会を意識させながら指導をすることが大切だと考える。

【児童質問紙の結果を踏まえた考察】

- ・概ね学習の必要性は理解していて、家庭学習や宿題にも前向きに取り組んでいる。
- ・自分にはよいところがあると思うについて肯定的な回答が両学年とも8割以上である。
- ・失敗を恐れず挑戦しようとする意欲はありと回答した児童は8割程度であり、6~7割程度の児童が自分の発言や行動に自信を持っていると回答している。
- ・思いやりを持って接していると回答しているのは9割以上いる。
- ・将来の夢や目標があると回答している児童は9割程度である。
- ・家族と将来について話をするのは6割程度であり、家族には自分のほめてもらいたいことをほめてもらっていると感じているのは8割から9割程度である。
- ・自分は家族の大切な一員であると感じているのは9割程度である。

以上、両調査についておおまかに考察をしました。結果は対象学年のものですが、この結果は緑小の総合的なものであると受け止めています。学力調査で測れる力は学力のほんの一部ではありますが、私たちはそこから学ばなくてはならないと考えています。そのため、結果の分析は全職員で行い、そこから得た成果と課題は当該学年だけでなく今後の全学年の指導に生かしてまいります。そして、子供たちが持っている力を信じて伸ばせることができるよう今後も努力し続けたいと考えています。これからも学校とご家庭が連携し、子供たちのよりよい成長を目指すことができますようご協力よろしく申し上げます。

【お知らせとお願い】

- ・9月1日に非常勤講師として新しい先生が着任しました。1ヶ月間お世話になります。よろしく申し上げます。
- ・残暑が厳しい日がしばらく続く予報となっています。WBGTの数値により外での活動を制限することもあります。ご家庭でも水筒の持参や睡眠時間の十分な確保などご協力よろしく申し上げます。
- ・現在使用しているメール配信システムは10月から使用できなくなります。新システム「すぐる」のダウンロードと登録を9月19日(火)までにお願いします。詳しくは9月1日配布の文書をご確認ください。ご協力よろしく申し上げます。

